

ブルキナファソ・ワガドゥグにおける 洪水に強靱な主要交通計画

(プロジェクト期間:2020年2月11日から2021年6月30日)



出典: RFI, 2009

プロジェクトの課題と目的

サハラアフリカの都市部は極端な水文気象現象に非常に脆弱であり、過去35年間に異常な暴風雨が発生する頻度が3倍にも増加しました。ブルキナファソも例外ではありません。2018年、大雨により大規模な洪水が発生し、首都・ワガドゥグ全体の交通網が途絶しました。気候変動がもたらす災害への強靱な道路ネットワークが構築されておらず、整備の行き届いていない砂利道が至る所に存在するためです。さらに、都市の成長、極端な気象、気候変動がワガドゥグの交通システムを脅かしています。なぜなら、ワガドゥグはハザードリスクデータを交通システムの空間計画に効果的に取り入れたり、適切なエンジニアリングおよび管理ソリューションを開発したりする経験を持ち合わせていないためです。

都市の交通システムの強靱性を改善するため、日本—世界銀行防災共同プログラムは、洪水やその他のハザードリスクを空間計画や技術デザインに取り入れ、また都市交通計画や管理において洪水リスクを体系的に考慮することができるよう、国および市の組織の能力を向上することを目的とした技術支援プロジェクト「ブルキナファソ・ワガドゥグにおける洪水に強靱な主要交通計画」を実施しました。

日本の知見を活用

ワガドゥグの都市交通システムに大きな影響を与える洪水を管理するため、プロジェクトではブルキナファソが活用することができる世界の様々な優良事例をケーススタディとしてまとめました。その一つとして、ワガドゥグと同じように、交通機関が洪水の影響を受けやすい兵庫県・豊岡市が取り上げられました。

2021年2月及び3月、宮崎大学・土木環境工学プログラムの道路工学に詳しい日本の専門家は、タイムラインに沿った事前防災行動計画の策定といった豊岡市の経験や対策についての貴重な情報を提供しました。ケーススタディには、豊岡市がどのようにして事前防災行動計画を策定したのかが詳細に記されていて、ブルキナファソが今後、災害によりよく備えるための重要なリソースになります。これに加えて、「水防災意識社会(社会全体が常に災害に備える)」の取り組みについても紹介されました。豊岡市の経験は今後、ブルキナファソの都市交通や都市開発計画に役立てられます。



出典: Flickr, Guillaume Colin & Pauline Penot